

パンデミックワーキングⅡ

日時 2023年12月8日（金）～2024年3月19日（火）
場所 （株）三菱総合研究所（東京都千代田区永田町）

参加校 厚木高校含む5校11テーマ（41名） ※厚木高校1年生11名

参加機関 内閣府（内閣官房 内閣感染症危機管理統括庁）
ソニーグループ株式会社
ソニーコンピュータサイエンス研究所
慶應義塾大学
筑波大学
名古屋工業大学
キリンホールディングス株式会社

主催 株式会社三菱総合研究所



今回の企画は、前回（8月）に実施されたパンデミックワーキングⅠ^{※1}の続編です。内容や実施形態を刷新し、より深く考えるワーキング企画です。より主体的に自分たちができることを探究しチームで考え、専門家のアドバイスを取り入れつつオリジナルの提案を作成しプレゼンする内容です。厚高からは有志で1年生11名が3つの班に分かれ、それぞれの案を考えました。12月に三菱総合研究所で5校全員が初顔合わせをして自分たちが考える素案を発表しました。このときはかなり粗削りの案でした。その後、放課後やオンラインを活用し班員で協議し続けました。2月に中間報告会（オンライン）があり、そこで専門家の方々にアドバイスをもらって、さらにブラッシュアップさせました。新型コロナ（パンデミック）に対して圧倒的に知識量や研究方法が少ない等身大の高校生が、約4か月取り組み続けました。3月の発表会では、班員がそれぞればらばらのブースで1人で説明と質疑応答をするという形式で、かなり負荷のかかる状態でチャレンジしました。今回は、前回の繋がりから私（引率；杉原）も企画の段階から関わらせていただいたので、高校現場の意見を三菱総合研究所さんがいろんな面から吸い上げてくださいました。

中間発表に向けて1月中旬と3月の発表会の前日にリハーサルを見て少しアドバイスをしましたが、外部有識者と自分たちだけの力で作り上げることを基本として取り組んでもらいました。1年生なのでスライド作りや発表の基本的な部分は粗いですが、とっっても前向きに頑張って取り組んでいました（2年生のヴェリタスⅡが始まると、ルーブリックに口頭発表やスライド、ポスターの作り方のルールや目安が書いてあるので、2年生は全員できるようになっています）。生徒の振り返りシートを見ると、自身の成長に繋がったこと、早いうちからこういう機会に触れられたこと、経験できたことが財産になった、という内容が多いです。彼らは自分たちで伸びる力をもっていて、それを自分たちの力で育てることができません。

（※1） https://www.pen-kanagawa.ed.jp/atsugi-h/tokushoku/documents/20231003_02.pdf